

2023年度 第7回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2023年11月27日(月) 10:00~11:30

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、荻野理事、岡島理事、佐野監事、【欠席】中野監事

出席教職員 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼地域産学連携センター所長、福田副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、山口企画・情報担当部長、小原教務・入試担当部長

【オンライン】

金村研究科長、常盤学生支援センター長、濱口研究開発センター長、延原情報センター所長、東高等教育開発センター長、滑川保健センター所長、山口高等教育開発センター副センター長、北畠地域産学連携センター副所長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、久保田作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長 今村学生・就職支援担当部長

議事概要 ○：学外理事、監事 ●：学内理事、事務局

【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

議決事項

第13号議案 令和5年度11月修正予算について

資料に基づき、福田副局長から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

- 実施期間が令和6年3月31日までとなっているが、年度内に終了するのか。入金はいつ頃を予定しているのか。
- 本事業は単年度の事業であり、年度内終了することが前提となっている。入金も年度内を予定している。

第14号議案 令和6年度予算編成方針について

資料に基づき、福田副局長から説明した。

案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

Op.7の概要1、「年度計画において重点事項となる取組を中心に～」とあるが、この重点事項は、年度計画の冒頭に記載している重点事項のことを指しているのか。

- そのとおり。令和6年度計画においても、複数の重点項目を設定し、予算を充てたいと考えている。

○収支の資産を見ると、収入の施設整備費補助金と、支出の施設整備費の額は一致している。これは、費用性のものであり、固定資産として計上するものではないということでしょうか。

- 長期修繕計画に定め、本学の機能維持のため既存設備を置き換えるものについては、全額県で負担をいただけるということとなっている。

施設整備補助金を財源として工事をすると、資本剰余金だけでなく資本剰余金純資産の部にも計上されることになる。

○収支は現金としての考え方で良いか？

- そのとおり。

○優秀で貧しい学生の救済は、公立大学の役割の1つであると改めて感じている。学費が安いというのは大事なことだと思う。

○修正は要しないが、p.7の概要3、「～体制の構築」「～取組を支援するため」といった表現は、抽象的で分かりづらい。「取組を支援する。」など言い切った方が良い。

- そのような姿勢で取り組んでまいりたい。

協議事項

(1) 令和5年度業務実績報告書（中間評価）について

資料に基づき、福田副局長から説明した。

主な発言は以下のとおり

○組織図において、兼務はあるか。教授会は教育研究機関内におけるトップの意思決定機関になるのか。

●各センターや委員会の委員は各学科専攻から選任しており、庶務は事務局が担っている。

教授会は意思決定機関ではない。理事長、学長のリーダーシップを発揮するよう制度改革がなされており、本学においては理事会、理事長が意思決定機関となっている。

○業務実績は、「～を検討した。」「～の取組を推進した。」となっているが、評価がしづらい。

●法人評価委員会でも同じような評価をいただいております、年度末評価の際には、記載を改めたい。

3 報告事項

(1) 業績評価指標の推移について

資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○休学者は、入学時点から精神疾患を抱えていた者が多いのか。

●中には入学当初から精神疾患を抱えている者もあり、試験や授業では合理的配慮を提供している場合もある。コロナ禍において、遠隔授業から対面授業に戻り、コミュニケーションがうまくできずに精神疾患となる学生が増えていると認識している。

○一過性のものならいいが、こういう傾向が続くとなると、体制として問題はないか。

- 今年度から、学生相談室にカウンセラー1名増加し、体制を整えている。

(2) 2024年度大学院入試結果について

資料に基づき、小原教務・入試担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 募集人員より相当数多くの合格者を出しているが、これは、一定のレベル以上は合格させているのか、または辞退を見込んで合格者を出しているのか。
- 今回の入試も定員より多く合格を出しているが、受験生全体として成績が良いこと、できるだけ領域のバランスよく合格者を出したいこと、教員の指導体制は確保されていることから、多く合格者を出している。
なお、全国的に大学院は定員割れが多くなってきており、文科省も危惧している状況にあり、本学は喜ばしい状況にある。

(3) 第25回清透祭について

資料に基づき、常盤学生支援センター長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 後援会はどういう組織か。
- 保護者が中心となっていて大学の様々な行事にご支援をいただいている。
- ホームカミングデーはどういう取り組みを行っているのか。
- 卒業生をお呼びして在校生との交流、卒業生同士と情報交換、交流の場としている。
- 卒業生からの支援は、大学の財政の基盤となるとおもうので同窓会活動をしっかり支援いただきたい。
- 大学祭は、大事なPRの機会なので、県や市の広報紙、公共交通機関に広告を掲載いただくなど取り組んでいただきたい。

○参加者はどのような属性の方が参加されているのか。また改善点はあるか。

●参加者は、近隣住民や入学希望者が大半であり、卒業生等関係者の割合は多くない。大学祭は学生主体の活動であり、大学側それを支援する立場とであるということが前提になるが、久しぶりの対面開催で学生側の準備が順調に進まず、事前のPRができなかったと考えており、今後の広報の仕方は検討したい。

●大学全体の広報については、宿題とさせていただきたい。

○大学祭には、大学予算は充てていないのか。

●後援会から補助金を出していただいているが、大学からは支出していない。教職員も寄附金という形で協力している。

○大学予算から支出することは難しいのか。

●基本的には、学生の自主的な活動という位置付けになっているので、大学として支出することは考えていないが、大学PRという観点から支出することについては、今後の検討課題としたい。

以上